

5. 安全対策の実施状況

5.1 設備の充実

(1)可動式ホーム柵

すべてのお客様により安全に、安心して鉄道をご利用いただくための設備で、2018年3月には当社全駅に設置を完了し、2020年11月にはOsaka Metroとの共同使用駅である江坂駅にも設置を完了しました。固定式の柵と、そこから開閉可能なドアにより構成され、列車到着時のみ開閉することで、プラットホームでの線路内への転落や列車との接触を防止します。



(2)櫛状ゴム

- ・乗降時の隙間への転落を防止し、ベビーカーやスーツケースの乗降も容易になります。
- ・ゴム状の治具(黄色)を設置することにより、万が一車両と接触しても安全性を保ちながらホームと車両の隙間を埋める役割を果たすことができます。



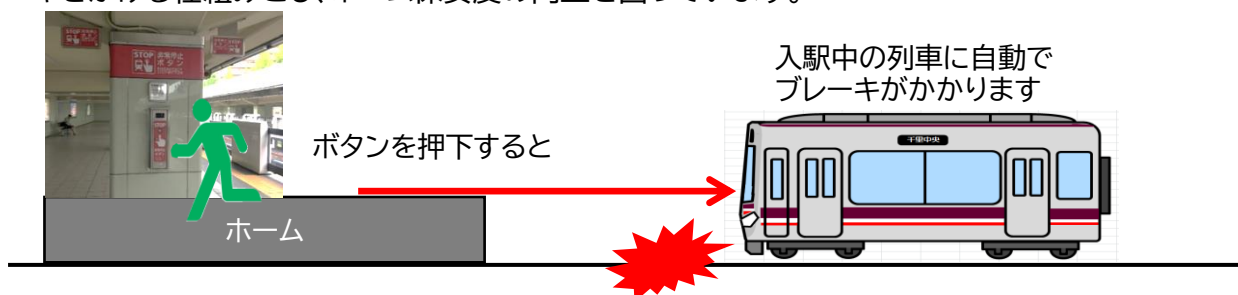
(3)ホームと列車の段差解消

ホーム床面の高さをかさ上げし、列車入口と車両との段差解消を図っています。また、段差・隙間に関する情報をらくらくおでかけネットに掲載しております。



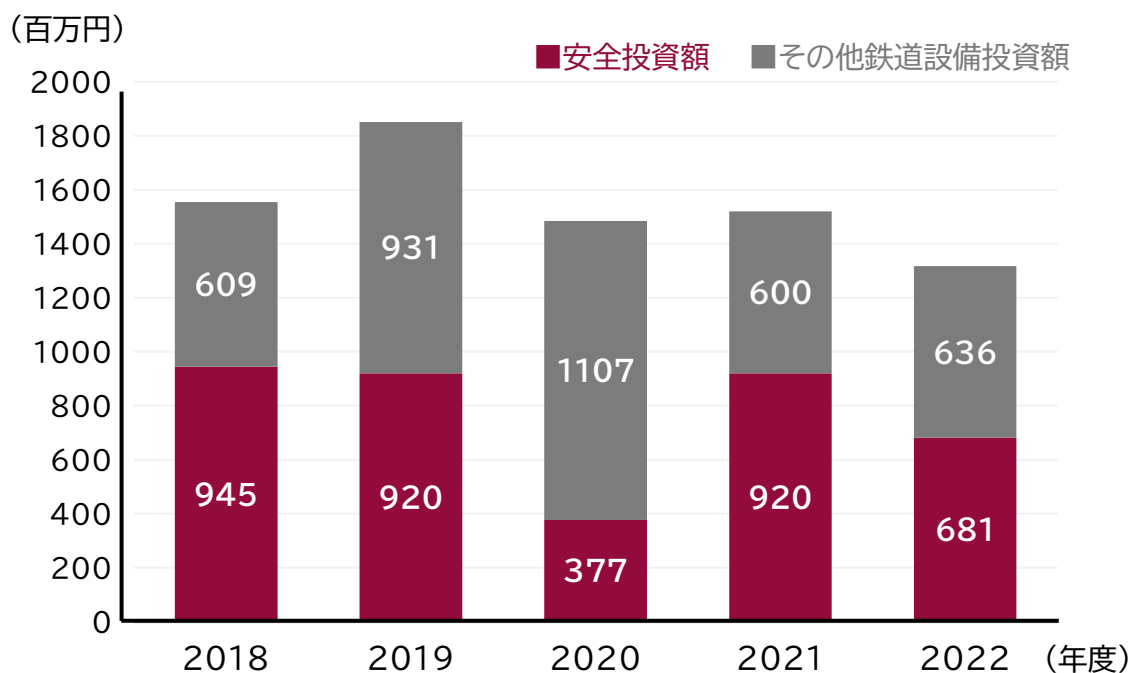
(4)非常停止ボタンのATC連動化

当社各駅のホーム上に設置している非常停止合図装置が動作した場合、駅に接近している列車、および駅を出発中の列車に対して、ATC(自動列車制御装置)との連動化により自動的にブレーキをかける仕組みとし、ホーム保安度の向上を図っています。



(5)安全投資

直近5か年での当社・鉄道事業に対する設備投資額は、以下のとおりです。



2022 年度に取り組んだ主な設備投資は次のとおりです。

■総合指令所屋根改修工事

総合指令所への漏水を防ぐため、屋根と雨樋をかさ上げにより改修し、総合指令所内に雨水が流れ込まない構造に変更しました。



施工前



施工後

■運行管理システムの更新



運行管理システムの改良更新を行い、各駅に列車在線表示業務用パソコンを設置しました。

■高架橋高欄取替ならびに高架橋剥落防止工事

江坂高架橋の既設コンクリートブロック高欄が高架下および道路へ落下するのを未然に防ぐため、FRP の軽量高欄に取替を行うとともに同区間の剥落防止工事を実施しました。

(江坂駅付近:延長 44.0m)



施工前



施工後

5.2 人材の育成、管理に関する取組み

(1) 係員の資質管理

① 適性検査・健康診断の実施

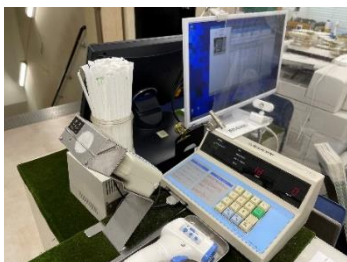
乗務員等、輸送の安全に直接関わる係員に対し、適性検査(クレペリン検査)を3年に1回、健康診断を年2回行い、継続的な管理を実施しています。

② 睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査の実施

列車を運転するすべての監督者や運転士は、検査器具「パルスオキシメータ」を睡眠時に装着してSASの簡易スクリーニングを実施しています。その結果、SASの疑いが認められ精密検査で治療が必要と診断された者は、医師による治療を行う体制をとっています。

③ 輸送の安全に関わる係員のアルコール検査の実施

乗務員・運輸課監督者・車両入換運転者・保守用作業用機械等運転者・社用自動車運転者を対象に、顔写真記録付きのアルコール検知器を用いてアルコール検査を実施しています。なお、総合指令所と江坂運転係員室および千里中央駅、桃山台車庫事務所、緑地公園駅を社内ネットワークで結び、総合指令所にて検査結果を一元管理しています。



アルコール検知器



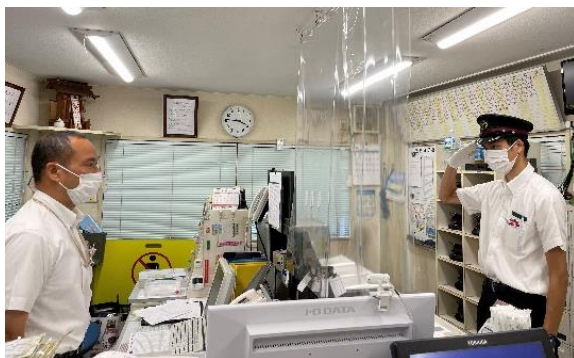
江坂運転係員室での検査
(対面点呼)



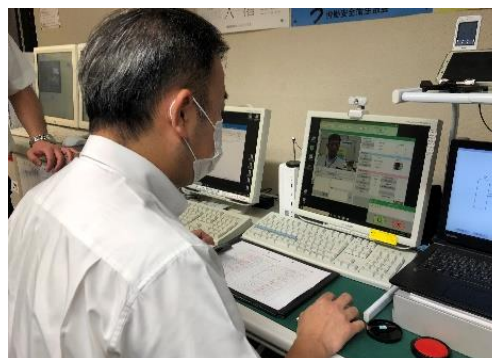
車両事務所での検査
(遠隔点呼)

④ 乗務員の出勤点呼の実施

乗務員を対象に、監督者による対面点呼を出勤時に必ず実施しています。アルコール検査をはじめ健康状態の確認や服装の点検、携帯品の確認、矯正眼鏡・コンタクトレンズの装着状況の確認、時計の整正状況の確認を行うとともに、監督者から運転業務に関する重要事項等を通告しています。なお、早朝時間帯における出庫担当乗務員の出勤点呼は遠隔点呼システムによる対面点呼を行っております。



江坂運転係での出勤点呼



遠隔点呼システムによる対面点呼

(2)教育

①サービス介助士の資格取得推進

お年寄りやお身体の不自由なお客様に気持ち良くご利用いただくために、介助の知識と技能を認定された「サービス介助士」の資格取得に取り組んでいます。2022 年度末時点の資格取得率は運輸従事員 **100%** となっています。

②技術部門の業務委託先に対する資格制度の制定

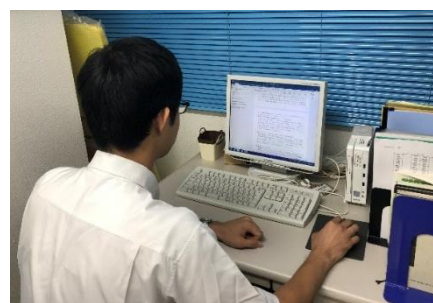
鉄道施設や車両の保守・工事では、専門的な知識や技術等が必要となるため、技術部門の業務委託の際には一定の資質を有することを確認する資格制度を設けています。資格を取得する講習時には適性検査(クレペリン)、筆記試験、面接試験を実施し、知識の充足度と適性能力を確認しています。



資格更新講習(机上教育)

③安全学習スペース「安全学び舎」

「安全学び舎」には規程類・安全報告書・安全に関する書籍を備え付けるとともに、学習用パソコンを設置し「ヒヤリ・ハット情報」「他社事故事例」等の教育資料および動画による訓練等の資料を収納しています。これらの資料を閲覧することにより映像イメージを直接伝えることができ、監督者、乗務員がより深く安全に対する知識を学ぶことができます。



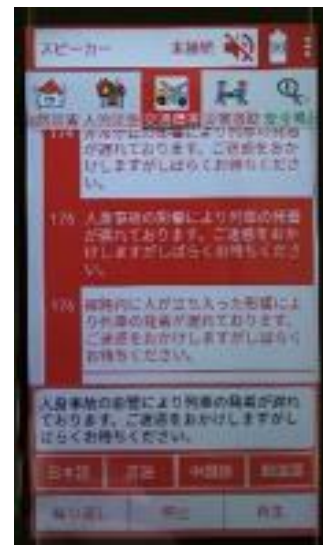
安全学び舎

5.3 異常時対応力の強化

(1) 情報発信力の強化

① 多言語ハンドスピーカー「しゃべるホン」

避難誘導時にハンドメガホンとして使用できる「しゃべるホン」を各駅に設置しました。付属のスマートフォンと連動し、離れた場所からでも登録された様々な異常時ケースのメッセージを日・英・中・韓の4か国語で案内することができます。



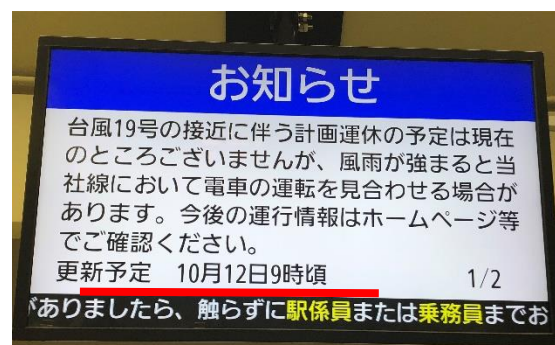
② 多言語情報発信機能

異常時における必要な情報を日本語で選択すると、自動的に4か国語に変換する表を作成し、必要な情報を迅速にホームページや旅客案内情報表示装置(案内ディスプレイ)に掲載できるようにしています。

日本語	英語
[運行状況] 運転正常	[Operating status] Suspend
[駅名] 千歳中央 江崎	[Station] Saitoh(MB) Enoki(M11)
[原因] 人身事故	[Cause] Accident resulting in injury/death
中国語 (簡)	
[運行状況] 停止	[Operating status] 停止
[駅名] 千歳中央(MB) 江崎(M11)	[Station] 千歳中央(MB) 江崎(M11)
[原因] 人身事故	[Cause] 人身事故
中国語 (繁)	
[運行状況] 暫停營運	[Operating status] 暫停營運
[駅名] 千歳中央(MB) 江崎(M11)	[Station] 千歳中央(MB) 江崎(M11)
[原因] 人身事故	[Cause] 人身事故
韓国語	
[運行状況] 停止	[Operating status] 停止
[駅名] 千歳中央(MB) 江崎(M11)	[Station] 千歳中央(MB) 江崎(M11)
[原因] 人身事故	[Cause] 人身事故

③ タイムラインの活用による情報提供

相互直通運転を行う Osaka Metro と連携し、異常時における情報提供のタイミングの目安を記したタイムラインを作成しています。タイムラインをもとに、ホームページや旅客案内情報表示装置(案内ディスプレイ)には、情報の更新時間をあらかじめ明確に記載しています。



④ 防護盾の配備

鉄道車内で発生した他社での刺傷事件を受け、全駅・全列車に防護盾を配備しています。



(2)警察消防合同訓練

列車内でのテロ行為が近年同業他社で発生していることを受け、2023年2月17日に車内にて男が火を放ち、お客様を切りつけているという想定のもと、迅速かつ安全な救助活動および初動対応スキルを高めるため、豊中警察・新千里消防署(豊中市)と合同訓練を実施しました。お客様の救助活動および避難誘導、関係各所への連携を図るとともに、既存の非常用設備が適時適切に動作するかの確認も合わせて行いました。訓練終了後には、当社線の施設や設備についての意見交換を実施し、当社線で異常が発生した場合の対応についての連携を強化しました。



発煙器を使用した車内の様子



軌道からの避難誘導



可動式ホーム柵の説明(意見交換会)



非常梯子の説明(意見交換会)

(3)各課における教育・訓練の実施

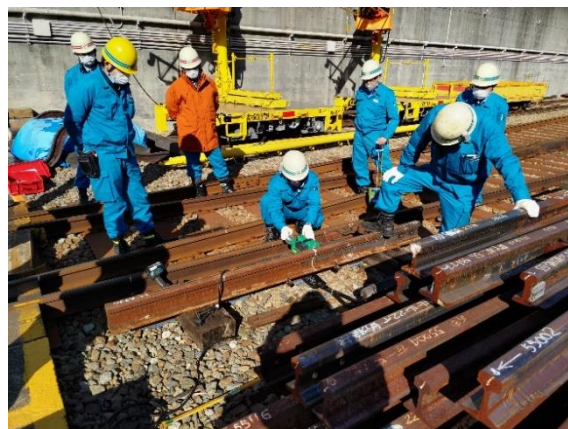
各課における教育・訓練は、年度初めに作成した年間計画をもとに実施しています。

2022年度に取り組んだ主な教育・訓練の内容は以下のとおりです。(抜粋)

担当部署	教育・訓練内容	頻度
運輸課、電気課、車両課	非常発報訓練(非常停電装置取扱い訓練)	年1回
全社	普通救命講習(AED取扱い教育)	年2回
施設課、電気課	軌道モーターカーおよびダンプトラック脱線復旧訓練	年1回
施設課、電気課	レール折損時の応急復旧訓練	年1回
運輸課	異常時対応訓練(夜間訓練) ポイント手回し訓練	年6回
運輸課	北急・Osaka Metro 異常時合同訓練	年2回
運輸課	各駅取扱い訓練	月1回
電気課	電力関係(サードレール)復旧訓練	年1回
電気課	信号関係(転てつ機)復旧訓練	年1回
電気課	内線設備(低圧回線障害)復旧訓練	年1回
電気課	通信設備(通信回線)障害復旧訓練	年1回
車両課	搬送台車取扱い習熟訓練	年1回
車両課	脱線復旧器取扱い習熟訓練	年1回
車両課	消防訓練	年1回



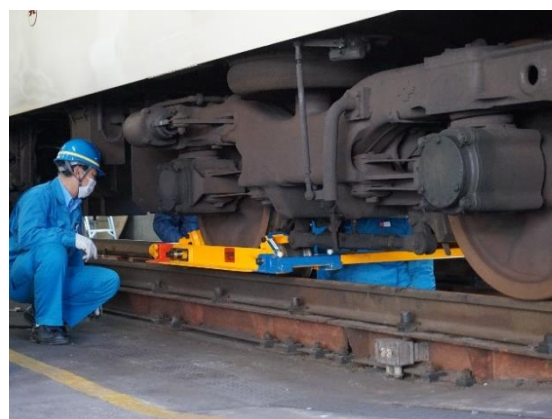
ダンプトラック脱線復旧訓練



レール折損応急復旧訓練



サードレール復旧訓練



搬送台車取扱い習熟訓練

(4) 新型インフルエンザ等に対する鉄道事業継続計画(BCP)の見直し

自然災害等発生時においても、鉄道事業を可能な限り継続させるため、鉄道事業継続計画(BCP)の見直しを図りました。

※BCPとは・・・自然災害などが発生した際に、事業の復旧・継続が行えるよう、計画を策定すること

5.4 その他安全への取組み

(1) 異常時支援活動用ワッペン

社員が通勤途上等で当社線を利用中、事故・災害等の異常時に遭遇し、現場にて支援活動を行う際に、「異常時支援活動用ワッペン」を左胸等に貼り付けることで、お客様や外部の関係者に対して、当社社員であることを明示し、円滑な支援活動を図ります。



異常時支援活動用ワッペン

6. 自治体との連携等

6.1 自治体、関係機関との連携

■「鉄道利用者の安全確保に関する包括連携協定」の締結

2021年12月17日に、大阪府警察本部と近畿運輸局との間で鉄道をご利用のお客様の安全確保を目的とした連携協定を締結しました。互いの協力体制を確固たるものとし、セキュリティに関する情報共有や合同訓練の充実などを図ります。

2022年度に自治体や関係機関と連携して当社が取り組んだ内容は、以下のとおりです。

(1) 列車内チカン追放キャンペーンの実施

2022年4月21日・2022年9月8日に、千里中央駅他にて大阪府警察本部鉄道警察隊と連携し、「列車内チカン追放キャンペーン」を実施しました。



列車内チカン追放キャンペーン